

科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（第24期・第6回）
議事録

1. 日 時 平成31年3月22日（金）10:00-12:00

2. 会 場 日本学術会議6C会議室

3. 配布資料

資料 24-06-01	前回（第5回）議事録
資料24-06-02-01a	ぼうさいこくたい2018 公開シンポジウム報告
資料24-06-02-01b	ぼうさいこくたい2018_プログラム
資料24-06-02-02a	成都会議概要
資料24-06-02-02b	成都会議:Nation's Synthesis
資料24-06-02-03	アジア学術会議theme5
資料24-06-02-04a	防災減災連携研究ハブ_構想・活動
資料24-06-02-04b	防災減災連携研究ハブ_規約
資料24-06-02-05a	第4回DRR研究イニシアチブグローバルサミット
資料24-06-02-06a	第三回日印防災協力会議_議事次第
資料24-06-02-06b	第三回日印防災協力会議 結果概要
資料24-06-02-06c	第三回日印防災協力会議 プログラム(日本語)
資料24-06-02-06d	第三回日印防災協力会議 技術カタログPPT
資料24-06-02-07a	グローバルプラットフォーム科学技術会合_議事次第案
資料24-06-03-01a	24期学術大型研究公募
資料24-06-03-01b	24期学術大型研究申請案_IRDR分科会
資料24-06-03-01c	24期学術大型研究申請説明資料_IRDR分科会
資料24-06-03-02a	国民大会2019出展公募
資料24-06-03-02b	2019防災こくたい出展申請案
資料24-06-03-03	委員会活動レビュー

4. 議 題

アンダーラインの事項はアクションアイテム

(1) 前回議事録確認

議事録を一部修正のうえ確認した（(3) 関連国内・国際連携活動に修正）

(2) 国内外報告事項

1) 2018年10月 防災推進国民大会2018（東京ビッグサイト）

資料 24-06-02-01a 及び 01b にて防災推進国民大会 2018 で開催したシンポジウムの報告を行った、参加者は 50 名程度であった。

2) 2018 年 10 月 成都会議（成都）

資料 24-06-02-02 02b により、Nation' s Synthesis（以下 NS）の考え方を説明。

成都会議では NS は当初は参加者から違和感を持たれていたが、議論を進めるにつれ理解が深まった。

NS 以外では中国側からの一帯一路政策関連研究のアピールが強烈であった。

3) 2018 年 12 月 アジア学術会議（日本学術会議）

資料 24-06-02-03 により開催概要を説明した。会議全体では 180 名程度の参加で成功裏に開催できた。次回はミャンマーで開催予定。日本学術会議がアジア学術会議の事務局を担っていることから、引き続き支援してゆくことを確認した。

4) 防災減災連携研究ハブ

資料 24-06-02-04a 及び 04b にて防災減災連携研究ハブの概要を説明した。また、NS 推進母体についての議論が紹介された。

研究ハブの説明

建築研究所がなぜ参加していないのか

もう少し網羅的に参加を募るべきでないか、防災に関する研究機関はもっとあるはずとの意見があり、自然災害研究協議会、地震火山予知研究協議会のチャンネルを通じて幅広く情報提供を行ってゆく方向で検討し、メンバー構成については大型研究計画とも合わせて今後引き続き議論してゆくこととした。

5) 2019 年 3 月 第 4 回世界防災研究所サミット（京都）

資料 24-06-02-05a にて活動を紹介した。GADRI を通じて NS の国際展開の枠組みの議論が進んだこと、また、NS サブセッションではチリや AIT からの参加者等から積極的な発言があったことを報告した。

6) 2019 年 3 月 第三回日印防災協力会議（京都）

資料 24-06-02-06a~06d を用いて概要を説明した。

- ・ 課題は研究機関間交流、都市間交流、民間企業間交流の 3 つにしぼられてきた
- ・ 130 名を超える大掛かりな会議になった
- ・ 技術カタログ(資料 06d)を提示できたことは大きな成果
- ・ 防災分野で具体的な協力のタマを本年 10 月の次期日伊首脳会談までに具体化したい、産業界、学術界両方あれば望ましい、6 月の後半をめどに提案が欲しい。

・本年12月にルールキーでアジア太平洋水文学会 APHW が開催予定、これをタマの一つにできな
いか検討する。

・ケララ州の水害等もあり、インドの水文学研究所と協力を進めたい
・産業界については初日の議論が盛り上がり2日目にフォローの議論を行った。特定の州を選んで防災に関する連携を具体的にやりたく、5月には新政府の体制が固まるので、その時期から具体的に進めたいとのインド側の意向。

・インドの事例に限らず、トルコでの協力事例等もあり、もっと事例を網羅的に把握する仕組みを作る必要があるのではないかとの意見があり、防災に関連する分野別委員会を通じて情報を集める等、効率よい情報収集方法を検討することとした。

・一方で、学術会議の性格として、委員のボランティア的な努力で活動が成立しているので、事務的に膨大な作業を伴うことは困難ではないかとの意見もあった。

・政府が行っている海外協力・連携等が防災白書に紹介されるので、6月に来年度版ができれば佐谷委員に紹介してもらおう。

7) 2019年5月 グローバルプラットフォーム (GP) 2019 (ジュネーブ)

- ・GPの本体プログラムに入れるのは困難だったのでサイドイベントとして開催する。
- ・4月18日のIRDR分科会で具体的な議論を行う。
- ・IRDRとFuture EarthでRisk KANのサイドイベントを予定しているとの情報があった

(3) 審議事項

1) 第24期学術大型研究計画の申請

・資料24-06-03-01aにより、公募の対象2)に該当し、条件1はOK(進捗あり)、条件2は東京会議の東京宣言が該当するので、継続採択されるとの見方が紹介された。

・申請書はIRDR分科会から提出する、IRDRでメール審議中、本日確定予定、現時点では特段異論は出てない。

・資料24-06-03-01c、P5の図で、政府機関や国際機関の位置づけ、名前出しのやりかたが適当ではない、具体的にどうかわるのか説明が困難との意見があり、関係委員でP5を修正して提案者の寶委員に届ける(例えば「民間」を「産業界」等に修正、「政策立案」と「実践」は分離しない等

2) 2019年ぼうさいこくたいの提案の申請

申請書は今後詰めてゆく、4月18日のIRDR分科会で審議、締め切りは5月24日なので間に合う。

3) H30年度のレビュー

- ・年度報告は7月に取りまとめ予定、昨年度からの主な進捗、NS、各種国際活動を記述する。

・ 検討委員会の設立趣旨が解るように記述すべき、タスクフォース会議は電話会議と明示すべき等の修正意見が出された。

(4) その他

・ 西口委員より、大阪万博のコンセプトづくり委員（経産省のWG）を務めているが、防災もテーマに入れるべきと主張しており、今後動きがあるかもしれないのでその際は対応を願いたいとの情報提供。

・ 第2回世界防災フォーラムが仙台で今年11月に開催されるので協力願いたいとの意見。

・ 研究不正について本人だけでなく連名者への対応への質問があり、学術会議としても当然対応するが、具体のペナルティはケースバイケースになるとの説明あり。

・ 議事録については今後出席者に確認するが、とりまとめは委員長一任とすることを確認。